

九月六日・日曜・午後一時
播州門徒追弔法要

ご案内

亀山本徳寺本堂



健康で若いからだは、乗り物にたとえれば、とても心地よいものです。けれども、この世は、運や努力で手に入れた地位や財産だけでなく、私たちのからだそのものも、いずれ「老い・病・死」によって奪われていく厳しい世界です。

人のいのちは、ろうそくの炎のようなものです。条件がそろえば燃え、いつかは消えていきます。私たちは自分のいのちを生きていますが、そのいのちがどこから来て、どこへ向かうのかを知りません。だからこそ、心の底から安心することができないのです。移り変わる環境や心とからだに振り回されながら、最後は誰もが骨となっていくます。

冷静に見つめれば、この世はそれほどにはかなく、悲しいものです。仏教では、こうした人間のありようを「無明（むみょう）」ものごとの本当の姿が見えていない状態と呼びます。これまで、数えきれないほど多くの先祖や先達が、仏さまの慈悲に出会い、お念仏を通して、この厳しい無明を見通す智慧をいただいてくれました。

「先に往く者は後の者を導き、後に残る者は先に往つた者を弔う」——そうした、避けることのできない別れの中で、残された私たちは初めて、先立たれた方のいのちのありよう行く末を、仏さまの信心の智慧を通して問うことができます。これを「仏縁（ぶつえん）」といいます。

このように、絶えることなく受け継がれてきた仏さまの智慧のはたらきが、浄土真宗の追弔をかたちづくってきました。

ご法要では、追弔の趣旨を表白（ひょうびやく）法要の意義を表す文章）に表し、『仏説阿弥陀経』を誦読（経文を目で確認し声に出して読み上げそれを聞いてお釈迦様の説法を心に刻む尊い行為）してお勤めいたします。

お経の中で、お釈迦さまが弟子の舍利弗（しゃりほつ）に語りかけられる場面を、今を生きる私たち自身への説法として受け止め、浄土のさとりについて、ともに聞かせていただきます。皆さまのご参集を心よりお待ちしております。

南無阿弥陀仏

